

News Release

2017年5月29日

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

夏目漱石生誕150年記念企画

[I]

舞台芸術創造事業 東京文化会館、ジャパン・ソサエティー(NY)国際共同制作

オペラ「Four Nights of Dream」 [日本初演]

2017年9月30日(土) · 10月1日(日)15:00開演

東京文化会館 小ホール

主催:東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

[II]

漱石が上野で聴いた「ハイカラの音楽会」

2017年10月15日(日)14:00開演

東京文化会館 大ホール

主催:夏目漱石生誕150年記念コンサート実行委員会 共催:東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

ГШЛ

Music Program TOKYO シャイニング・シリーズVol.1 レクチャーコンサート 「漱石の体験した洋楽―室内楽と喜歌劇《ボッカチオ》」

2017年10月28日(土)15:00開演

東京文化会館 小ホール

主催:東京都/東京文化会館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)

【「Four Nights of Dream」「レクチャーコンサート」取材・お問合せ】

公益財団法人東京都歴史文化財団

東京文化会館 事業企画課 営業推進係 広報担当

〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45

TEL: 03-3828-2111(代表) FAX: 03-3828-6406

WEB: www.t-bunka.jp | wtbunka_official

【「ハイカラの音楽会」取材・お問合せ】

夏目漱石生誕150 年記念コンサート実行委員会 事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-21-10-702 株式会社ミリオンコンサート協会内

TEL: 03-3501-5638 FAX: 03-3501-5620 WEB: www.millionconcert.co.jp

【一般のお客さまのお問合せ窓口・チケットのお申込み】 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

創造の拠点としての「東京文化会館」

東京文化会館について

東京文化会館は、1961年(昭和36年)に東京都の開都500年記念事業として建設されました。「首都東京にオペラやバレエもできる本格的な音楽ホールを」という要望に応えて誕生した当館は、日本を代表する"音楽の殿堂"として輝かしい歴史を積み重ねてきました。

世界最高峰のオーケストラ、歌劇団、バレエ団はもちろんのこと、ヘルベルト・フォン・カラヤン、カルロス・クライバー、マリア・カラス、マルタ・アルゲリッチなど、東京文化会館のステージを飾った一流アーティストは枚挙にいとまがありません。そして多くの観客を陶酔させ、忘れえぬ感動を残してきました。



東京文化会館~数多くの世界初演が彩る「創造の拠点」

当館の約55年の歴史の中で特筆すべきこととして、多くの楽曲、舞台作品の初演が行われてきたことが挙げられます。大ホールでの管弦楽曲、オペラ、バレエ作品、小ホールでの室内楽曲、独奏曲等。世界初演や日本初演が多数行われ、時には熱狂を、時には激しい議論を巻き起こしてきました。

そのような文化的磁場であり続けた当館では、主催公演においても、「創造発信」をテーマに、新しい舞台芸術作品の創造に積極的に取り組んできました。

オペラでは神田慶一台本・作曲「**僕は夢を見た、こんな満開の桜の樹の下で**」(2003年)、「あさくさ天使」(2004年)、宮川彬良作曲「ルビチ」(2006年)、松本隆台本&千住明作曲「**丙葉集**」(2009年明日香風編/2011年二上挽歌編)などを世界初演。2011年(開館50周年)では黛敏郎作曲「古事記」の舞台版日本初演、2016年(開館55周年)はクリス・デフォート作曲「眠れる美女~House of the Sleeping Beauties~」を日本初演しました。その他、細川俊夫作曲「リアの物語」(1999年)、黛敏郎作曲「金閣寺」(1999年)他を上演しています。

舞踊公演では、大友直人指揮、大島早紀子構成・演出・ 振付、白河直子主演による「ボレロ」「中国の不思議な役





人」「瀕死の白鳥」(2005/2008/2010年)、土取利行音楽&サルドノ・W・クスモ振付「ニルヴァーナー泥 洹ー」(2013年)を初演。花柳壽輔構成・演出「日本舞踊×オーケストラ」(2012/2014年)では「ボレロ」「牧神の午後」「パピョン」「いざやかぶかん」「ペトルーシュカ」等、9演目が新たに創られました。2016年には、白井剛構成・振付・ダンス、中川賢一音楽構成・ピアノ、堀井哲史(Rhizomatiks Research)映像演出による「ON-MYAKU 2016—see / do / be tone」を初演しました。

舞台作品では、人形劇俳優たいらじょうと音楽家によるコラボレーションによる「**王女メディアの物語**」(2014年)「**Hamlet**」(2016年)を初演。また、ストラヴィンスキーの「**兵士の物語**」を2007年に大友直人指揮&奥田瑛二演出・台本・出演で上演し、2017年3月には黒木岩寿演出で上演しました。

東京文化会館では、自主企画公演において、より創造性、発信性の高い新作に挑んで参ります。

夏目漱石生誕150年、オペラ、コンサート、レクチャーコンサートを開催!

夏目漱石生誕150年を記念し、オペラ、コンサート、レクチャーコンサートを開催!

東京文化会館は、夏目漱石生誕150年となる本年、国内外の団体と連携し、夏目漱石に関するオペラ、コンサート、レクチャーコンサートを9~10月に開催します。

オペラ公演では、夏目漱石の『夢十夜』を原作とし、2008年にスウェーデンで世界初演されたオペラ「Four Nights of Dream」を若手歌手や東京音楽コンクール入賞者等を起用し、ニューヨークのジャパン・ソサエティーとの共同で新制作し日本初演します。

「漱石が上野で聴いた『ハイカラの音楽会』」では、山田和樹指揮、横浜シンフォニエッタの演奏で漱石が体験した演奏会を再現します(主催:漱石生誕150年記念コンサート実行委員会/共催:東京文化会館)。レクチャーコンサートでは夏目漱石が生前聴いたコンサートやオペレッタのハイライトを解説付きでお届けします。

オペラ「Four Nights of Dream」、ニューヨークのジャパン・ソサエティーとの共同制作により日本初演!

9月30日(土)と10月1日(日)には、ニューヨークのジャパン・ソサエティーとの共同制作により、『夢十夜』を原作としたオペラ「Four Nights of Dream」を小ホールで日本初演します(舞台芸術創造事業)。

本作品の台本は夏目漱石の小説『夢十夜』がベースになっています。『夢十夜』は様々な時代を背景に不思議な夢を綴った10編の物語で構成されており、1908年夏、朝日新聞で連載されました。作曲家の長田原(おさだもと)はその中から4編を選んで英語の台本を書き下ろし、オペラ作品に仕上げました。この作品を通して、人の潜在意識の奥深くに潜む感情を垣間見ることができるでしょう。

作曲と台本はニューヨークを拠点に活躍する長田原、指揮はドイツ人の父(指揮者の故クルト・マズア)と日本人の母を持つ若手実力派指揮者、謙=デーヴィッド・マズア、演出はブルックリンを拠点に活躍するアレック・ダフィー、舞台美術家に台湾系アメリカ人で2017年トニー賞ミュージカル装置デザイン賞にノミネートされているミミ・リエン、照明家にトルコ人、衣裳家にルーマニア人といった国際色あふれるプランナー陣を起用します。

また、歌手および演奏家には日米の新進気鋭のアーティストを起用します。歌手はニューヨークのジャパン・ソ サエティーがオーディションを行い若手6名を起用。12人編成のオーケストラは東京音楽コンクール入賞者を 中心とした若手演奏家が担います。

東京文化会館での公演(9月30日・10月1日)に先立ち、9月13日・15日・16日にはニューヨークのジャパン・ソサエティーで上演します(主催:ジャパン・ソサエティー)。

東京文化会館とジャパン・ソサエティーが、それぞれが有するノウハウを結集し、ハイクオリティかつ国際的な舞台を創造することにより、世界レベルで活躍できる音楽家育成に寄与し、日本の文化と芸術を世界に向けて発信し、芸術文化交流の発展に寄与します。

レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽―室内楽と喜歌劇《ボッカチオ》」

10月28日(土)には小ホールでレクチャーコンサートを開催します(Music Program TOKYO:シャイニング・シリーズVol.1)。企画者の瀧井敬子の解説を交え、夏目漱石が実際に耳にしたコンサートの足取りを辿ります。

曲目は、前半はガーデの「ピアノ・トリオ」とドヴォルザークの「ピアノ五重奏曲第2番」を、後半はスッペの喜歌劇《ボッカチオ》ハイライト(演奏会形式)です。東京音楽コンクール入賞者を中心とした若手音楽家を中心にキャスティングしました。

漱石が上野で聴いた「ハイカラの音楽会」

10月15日(日)には大ホールで山田和樹(指揮)、横浜シンフォニエッタ(管弦楽)他の出演で、夏目漱石が1912年(明治45年)6月9日に東京音楽学校奏楽堂で聴いた演奏会の再現コンサートを開催します(東京文化会館共催)。川﨑翔子(ピアノ)、遠藤真理(チェロ)が出演する他、漱石と縁の深い真庭市よりエスパス混声合唱団が出演、山田和樹が音楽監督を務める東京混声合唱団と合同の合唱団で舞台に立ちます。

舞台芸術創造事業 夏目漱石生誕150年記念・東京文化会館、ジャパン・ソサエティー(NY)国際共同制作 オペラ「Four Nights of Dream」【日本初演】

2017年9月30日(土)・10月1日(日)各日15:00開演 東京文化会館 小ホール 上演時間(予定):約1時間30分(休憩なし)

演目■長田原作曲・台本:オペラ「Four Nights of Dream」 原語(英語)上演・日本語字幕付き (夏目漱石の『夢十夜』の「第二夜」「第十夜」「第三夜」「第一夜」を原作としたオペラ作品)

原作■夏目漱石『夢十夜』(1908年朝日新聞に連載) 作曲•台本■長田原

指揮■謙=デーヴィッド・マズア

演出■アレック・ダフィー

出溜■

ナレーター/女声コーラス1:マリサ・カーチン(ソプラノ) 侍/男声コーラス1(息子):マコト・ウィンクラー(バリトン) 女声コーラス2/婦人:グロリア・パーク(メゾソプラノ) 庄太郎/男声コーラス2/男性:ジェシー・マルジィリー(バリトン) 健さん/父親:アンソニー・ウェッブ(テノール) 男声コーラス3:ロッキー・セラーズ(バス)

管弦楽■

Tokyo Bunka Kaikan Chamber Orchestra

ヴァイオリン:坪井夏美 *第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

ヴァイオリン: 吉江美桜 *第12回弦楽部門第3位 ヴィオラ:鈴村大樹 *第9回弦楽部門第3位 チェロ:笹沼樹 *第12回弦楽部門第2位 コントラバス: 白井菜々子 *第13回弦楽部門第3位 フルート: 多久和怜子 *第11回木管部門第2位 オーボエ:篠原拓也 *第9回木管部門第2位

クラリネット:コハーン・イシュトヴァーン *第11回木管部門第1位及び聴衆賞

ファゴット:柿沼麻美 *第13回木管部門第3位

ホルン:深江和音

パーカッション:高瀬真吾

ピアノ:小林海都 *第11回ピアノ部門第2位

スタッフ■

舞台美術:ミミ・リエン 照明:トゥーチェ・ヤサック

プロダクション・マネージャー:カレン・ワルコット

ニューヨーク公演

9月13日(水)・15日(金)・16日(土) 会場:ジャパン・ソサエティー Lila Acheson Wallace Auditorium



















衣裳:ウァナ・ボテズ

舞台監督:田中義浩、アリッサ・K・ハワード

料金:S席6,000円 A席4,000円 B席2,000円 ※各種割引あり(販売中)

主催:東京文化会館(公益財団法人東京都歴史文化財団)

共同制作:ジャパン・ソサエティー(ニューヨーク)

東京文化会館ザ・イヤーパートナー: 上野精養軒

協力:株式会社ヤマハミュージックジャパン/全日本空輸株式会社

平成29年度文化庁劇場·音楽堂等活性化事業

あらすじ

The First Night(原作「第二夜」)

侍が「無」とは何かということを理解するため座禅を組んでいる。和尚に悟りを開けないことを馬鹿にされた侍は、1時間以内に悟りを開けたら和尚の首を斬り、開けなかった場合は自害すると決めていた。答えを見つけようともがく中、怒りに時間を費やし悟りに到達することができぬまま、時計が1時間を知らせるのだった。

The Second Night(原作「第十夜」)

夢見る少年の庄太郎は、一日中、果物店の店先に座って通りゆく女を眺めている。店に女が現れ、一番大きな果物の籠を買う。庄太郎は家まで運ぼうと申し出る。絶壁に着き、女は「飛び降りろ、飛び降りなければ豚に舐められる」と言う。庄太郎は豚をひどく嫌っていたが飛び降りを拒否する。庄太郎は襲いかかる無数の豚を打つ。遂に力尽きた庄太郎は豚に舐められ、倒れこむ。

The Third Night(原作「第三夜」)

父が息子を背負って歩いている。息子は盲目で、大人のような声色をしており、物事を予知する能力を持っている。父は息子が自分に災いをもたらすと考え、どこかへ捨てようと考えている。計画を実行する前、息子は父が100年前に自分を殺害したことを明かす。

The Fourth Night(原作「第一夜」)

死を迎えようとする女とその傍に男がいる。死ぬ間際に女は男に「私が死んだら、光っている大きな真珠貝で穴を掘って、星のかけらで墓標を立ててください。そして、墓石の傍で私のことを待っていてください。」と言う。女を100年待つことが出来たら、女は男に会いに来ると言う。男が女を待つと伝えると、女は最期を迎える。女の死後、男は墓石の横で女を待つが、ついに女が嘘をついたのではないかと疑い始める。すると、墓石の星のかけらから茎が伸び始め、細長いつぼみがふっくらとした柔らかい花弁を開く。男はその白い百合に口づけをすると、100年が経ったことに気が付く。

夏目漱石『夢十夜』について

「こんな夢を見た」という書き出しが有名な、夏目漱石の短編小説。10の短編で構成されており、1908年夏に朝日新聞に連載された、漱石41歳の時の作品。人の潜在意識の奥深くに潜む感情を垣間見ることが幻想的な作品で、近年中学校および高校国語教科書にも掲載されています。

「Four Nights of Dream」上演歴

本作品は2008年にスウェーデンのヴァスターナ・アカデミーにて初演され、2012年にニューヨーク・シティ・オペラ「VOX」/オペラ・アメリカの新作品フォーラムでも取り上げられ、抜粋版がコンサート形式で上演されました。 今回の公演は新演出による上演となります。

Four Nights of Dream was originally commissioned by Vadstena-Akademien's Artistic Director Nils Spangenberg and premiered at Vadstena Castle in Sweden with generous support from The Japan Foundation, American Composers Forum, The Scandinavia-Japan Sasakawa Foundation, and The Barbro Osher Pro Suecia Foundation.

This new production of Four Nights of Dream is made possible with lead support from Doug and Teresa Peterson, Individual Artist Grant support from the New York State Council on the Arts with the support of Governor Andrew M. Cuomo and the New York State Legislature, and special support from The Japan Foundation, New York. Additional support is provided by Gary M. Talarico and Linda W. Filardi, THE ASAHI SHIMBUN FOUNDATION, Jun Makihara and Megumi Oka, Alan M. Suhonen, Hiroko Onoyama, Dr. and Mrs. Carl F. Taeusch II, Louis J. Forster, an anonymous donor, Ms. Paula L. Lawrence, Satoru and Hiroko Murase and The Barbara Bell Cumming Foundation. The production also received in-kind support from All Nippon Airways Co., Ltd., Yamaha, The Omomuki Foundation, and TOKYU HOTELS CO., LTD. Major support for Japan Society Performing Arts programs comes from MetLife Foundation and ORIX Americas Miyauchi Foundation.

まさだ もと 長田 原(作曲・台本)インタビュー (1/2)

――長田さんの作曲家としてのキャリアや活動について、教えてください。

ニューヨークへは元々留学の目的で渡り、作曲専攻で学士・修士を取得した後、そのまま居残りました。TV向けの音楽を制作しつつ室内楽作品を主に欧米で発表していたのですが、「Four Nights of Dream」の委嘱を受けたのをきっかけに、オペラを作曲活動の中心に置くようになりました。2015年には、劇作家シャスティン・パースキーとコラボレートし、秦の始皇帝の伝説を題材にしたオペラ「サン・オブ・ヘブン」をスウェーデンで発表しました。

---「Four Nights of Dream」はどんな作品ですか?

夏目漱石の『夢十夜』から抜粋した四編をオペラ化した4シーンから成る作品で、出演する歌手は6人、オーケストラの編成も12人と小規模な室内オペラです。話の内容は大体原作どおりですが、女声ナレーター、男声コーラスなど原作に無いキャラクターも登場します。これは女声と男声のバランスを取ると共に、キャラクター数を増やし、物話を異なる視点から語らせ、作曲過程において手中の音楽表現手段を増やすという目的もありました。

――夏目漱石作品を原作にオペラを書こうと思ったきっかけや経緯を教えてください。

漱石は、子供の頃からあまりにも身近な存在であったためか、最初はオペラ化の対象に全く入っていませんでした。きっかけは『夢十夜』を英語で読んだスウェーデン人の友人が「これをオペラにしたらどうか」と発案したことです。その視点で改めて英語で作品を再読した所、この小説の持つ幻想性、つまり夢として語られる、これらの話の設定・登場人物の微妙な超現実性が、オペラが本質的に持つ非現実性、つまり登場人物が台詞を全て歌うという設定と良く対応していると気付いたのです。また各話は短く構成がシンプルで分かり易いので、オペラの主役であるべき音楽が自由に呼吸し、物語を推進させるスペースが充分にあると感じました。

一一生誕150年を迎えた夏目漱石の作品の魅力については、どのように感じてらっしゃいますでしょうか。

漱石は、私が幼少より最も慣れ親しんで来た作家と言って良いでしょう。小学生の時、図書室で理解出来ないなりに『こゝろ』を読んで以来、大体十年おきにふと漱石が読みたくなり、そのつど何作品かを読み返して来ました。そして当然のようにその度に違う印象・感想を持つのです。私が漱石に惹かれる理由を充分に言葉にするのは難しいことですが、ひとつには自分にとって切実な問題、個人とそれを取り巻く社会の対立、意識を持ったがゆえの人間の不幸、そして意識の奥底に宿る自己の存在への不安などを、その作品の中で扱っているからだと思います。また漱石は、西洋的模範に基づく国際秩序の下で生きる日本人の潜在的苦悩・葛藤と向き合った最初の知識人のひとりと言えます。それは、現在でも私のように海外で活動する日本人の表現者の多くが直面する問題だと思います。

――『夢十夜』から今回オペラになる4作を選ばれた理由をおしえてください。第2夜、第10夜、第3夜、第1夜の順番で構成する意図についてお伺いしたいです。

まず実際的な問題として、10編の内、舞台化に耐え得ると思われるものを選びました。『夢十夜』には、想像力を刺激する抽象的な話がありますが、そのような話は必ずしも劇やオペラ向きとは言えません。さらに抜粋した4編は、オペラの古典的テーマとも言える、愛(性)か死、またはその両方をそれぞれ題材にしていることも理由のひとつです。順番が原作と違うのは、4編を並べてひとつのオペラ作品とする際、最も構成的にしっくり収まるように入れ替えたためです。また原作同様、オペラ中でも、各シーンのドラマ上の繋がりは表面的にはありませんが、例えばシーン1 (The First Night)とシーン3 (The Third Night)、またシーン2 (The Second Night)とシーン4 (The Fourth Night)は、それそれ同じ歌手が主役になるという関係があり、その他シーン同士の「隠された」関係性や暗示も皆無ではありません。

まきだ もと 長田 原(作曲・台本)インタビュー (2/2)

――演出のアレック・ダフィーや若手演奏家とのプロダクションについて、期待することや想いを教えてください。

総括的に考えれば、オペラのプロダクションに最も影響力を持つのは演出家と言えるでしょう。私はオペラを作曲する際、音だけでなく、視覚的にもシーンごとの様子が頭の中にある程度は浮かんでいるのですが、いざ自分のオペラが実際に舞台化される時は、演出家が美術・衣裳・照明デザイナーと協力して、自分が漠然と考えていたものとは全く違う世界を創り出し、それに驚かされます。これは自分のオペラが舞台化される時のひとつの楽しみとも言えます。アレックも、今やニューヨーク若者文化の中心であるブルックリンで活躍するクリエイター達と協力して、私が想像もつかないような、斬新なプロダクションを作ってくれるだろうと期待しています。また、いわば若手演奏家のオールスター楽団とも言える今回のオーケストラが、今最も勢いのある若手指揮者のひとりである謙=デーヴィッド・マズアと、どんな音を作り出してくれるかも本当に楽しみです。

――東京文化会館についての思い出などはありますか? 当館で長田さんの作品が演奏されたことはあるでしょうか。

私は高校に入学するまで赤羽で育ち、子供の頃、映画を観に行くなど遊びに行くのは大抵池袋か上野でした。ですからニューヨークに住む今、帰国して上野公園に行き、東京文化会館の建物を見るとすごく懐かしい気分になります。私の知る限りでは、自分の作品が東京文化会館で演奏されたことは無いので、今回が初めてとなります。

――日本のお客様へ、メッセージをお願いします。

漱石生誕150年記念という言葉は、主にイベント広報の謳い文句として使用されていますが、彼が明治維新前夜に生まれたことを考えると、それから150年ということは日本の歴史においてもひとつのマイルストーンだと言えるでしょう。そして21世紀初頭の2017年に、150年前には思いも寄らなかったであろう今回のような国際色豊かなオペラ公演が東京で実現するということは、我々の社会が歩んで来た道程の、少なくとも文化面における、ひとつのささやかな成果と言って差し支えないと思います。そしてその成果を1人でも多くのお客様と分かち合えたらと思います。

レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽―室内楽と喜歌劇《ボッカチオ》」

Music Program TOKYO シャイニング・シリーズVol.1 レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽―室内楽と喜歌劇《ボッカチオ》」

*第11回弦楽部門第1位及び聴衆賞

*第7回声楽部門第1位及び聴衆賞

*第8回声楽部門第2位及び聴衆賞

*第10回声楽部門第2位〈最高位〉及び聴衆賞

*第6回ピアノ部門第1位

*第1回声楽部門第2位

*第10回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

2017年10月28日(土)15:00開演 東京文化会館 小ホール

出演■

ヴァイオリン:小川響子 ヴァイオリン:戸原 直 ヴィオラ:田原綾子

チェロ:森田啓佑

ピアノ: 冨永愛子

テノール: 宮里直樹

ソプラノ:清水理恵

ソプラノ:駒井ゆり子 ソプラノ:末吉朋子

メゾソプラノ:高橋華子

テノール:鏡貴之 バリトン:原田 圭

バリトン:星田裕治 バリトン:坂下忠弘

語り手・バリトン:大久保光哉

ピアノ:堀内由起子 企画 · 解説: 瀧井敬子

曲目■

ガーデ:ピアノ・トリオより 第1楽章

ドヴォルザーク:ピアノ五重奏曲第2番 イ長調より 第1・3・4楽章 スッペ:オペレッタ《ボッカチオ》

> ~大正4年の帝国劇場日本初演版に基づくコンサート形式 によるダイジェスト版

料金:全席指定3,000円 学生1,000円(販売中)

主催:東京都/東京文化会館・アーツカウンシル東京 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

助成:公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション

平成29年度文化庁劇場·音楽堂等活性化事業







小川響子

戸原 直

田原綾子





森田啓佑

富永愛子





宮里直樹

清水理恵

駒井ゆり子







末吉朋子

高橋華子











大久保光哉

堀内由起子

瀧井敬子



長田原 Moto Osada(作曲·台本)

ニューヨーク在住。西洋のハーモニーを使って日本のテーマを表現するユニークな作風で、オーケストラから、室内楽、ソロ作品まで幅広く手掛けている。ニューヨーク大学、マンハッタン音楽院を卒業。アメリカン・ミュージック・センター、国際交流基金、ASCAP、S&R基金、イヴァー・ミハショフ・トラスト・フォー・ニュー・ミュージックなど多数受賞。米国において「他にない個性」、「美しく、かつ、類ない力強さ」と高く評価されている。



謙=デーヴィッド・マズア Ken-David Masur(指揮)

ドイツ人の父と日本人の母を持つ。著名な指揮者であった父、故クルト・マズアから薫陶を受け、のちにマンハッタン音楽院とハンスアイスラー音楽大学で学んだ。2016-17年シーズンは、タングルウッド音楽祭でボストン交響楽団、タングルウッド・ミュージック・センター・オーケストラを、夏にはロサンゼルス交響楽団にデビューを果たした。2011年よりミュンヘン交響楽団首席客演指揮者に就任。現在はボストン交響楽団の副指揮者を務める傍ら、フランス、韓国、ロシア、ドイツなどでも指揮。ニューヨークのチェルシー・ミュージック・フェスティバル芸術監督を務めている。



アレック・ダフィー Alec Duffy(演出)

ブルックリン在住。ニューヨークで音楽と演劇のコラボレーション劇団「Hoi Polloi」を旗揚げし、芸術監督を務めている。ニューヨーク・タイムズ紙に「ニューヨークで最も抜きんでた大胆なアーティストの一人」と評され、ブルックリンにアート・スペース「JACK」(オビー賞受賞)を設立するなど精力的な活動を続けている。近年の代表作として、舞台「Shadows」(2011年)や、自ら出演と演出を担当し、オビー賞を受賞した「Three Pianos」(10・11年)等がある。日本の演劇との関わりも深く、13年にはジャパン・ソサエティーの委嘱で柴幸男の岸田戯曲賞作品「わが星」の英語版「Our Planet」を、また岡田利規がダフィーのために書き下ろした「Quiet Comfort」を16年に演出している。



マリサ・カーチン Marisa Karchin(ソプラノ)

マネス音楽大学、イエール大学を卒業。2016-17シーズンは、カンタンティ・プロジェクトでヘンデル「オルランド」アンジェリカ役、ニュー・スクールでロバート・アシュレイ「ダスト」に出演、オペラ・サラトガで「ファルスタッフ」ナンネッタと「Zemire et Azor」ファトメを演じる。2015-16シーズンは、島田俊行と、ジョン・マウチェリの指揮でイエール大学交響楽団のカーネギーホール公演に出演したほか、ユートピア・オペラ、ピッツバーグ・フェスティバル・オペラ公演にも出演。現代音楽にも熱心に取り組み、ワシントン・スクエア・コンテンポラリーミュージック・ソサエティー、センター・フォー・コンテンポラリーオペラ、ニュー・ミュージック・マナーズやC4(the Choral Composer-Conductor Collective)に出演。



マコト(誠)・ウィンクラー Makoto Winkler(バリトン)

ニューヨーク出身。ノックスビル市にあるテネシー大学で修士課程を修了。在学中、モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」ドン・ジョヴァンニや「魔笛」パパゲーノ、メノッティ「領事」ジョン・ソレルなどを演じる。ノックスビル・オペラで上演されたビゼー「カルメン」モラレスでプロデビュー。その後セントラル・シティ・オペラ「ラ・トラヴィアータ」「ラ・マンチャの男」を、グリマーグラス・オペラ「泥棒かささぎ」「ラ・ボエーム」に出演。また、ニューヨーク・シティ・オペラでも「Los Elementos」「キャンディード」に出演。最近ナッシュビル・オペラ公演に初出演、「カルメン」モラレスとダンカイロを演じた。この夏はグリマーグラス・フェスティバルに再登場し、ドニゼッティ「カレーの包囲」ウィサンツと「オクラホマ」アンドリュー・カーネスを演じる予定。



グロリア・パーク Gloria Park(メゾソプラノ)

高い歌唱力のみならず、舞台上での存在感や登場人物を生き生きと表現することで知られ、「フィガロの結婚」で演じたケルビーノ役はニューヨーク・タイムズ紙に「シーンをさらった」と評される。「ヘンゼルとグレーテル」へンゼル、「カルメンの悲劇」カルメン、「フィガロの結婚」ケルビーノ、「コジ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ、「ねじの回転」ミス・ジェッスル、「博士と彼女のセオリー」バーティーなど。リンカーン・センターの「メサイア」の独唱でデビューの後、多数のオラトリオにも出演する。最近では、Jeeyoung Kim作「Mother's Mother」ニューヨーク公演で母の役を演じる。デヴィッド・アダムス・アート・ソング・コンクール優勝。マイケル・シスカ・オペラ賞受賞。2015年ニューヨーク、ストーニーブルック大学で博士号取得。ニューヨーク在住。



ジェシー・マルジィリー Jesse Malgieri(バリトン)

メトロポリタン・オペラ評議会、Gerda Lissnerファウンデーション、ベル・カント・ファウンデーション、シャトーヴィル・ファウンデーション、サラソタ・オペラ、ロチェスター交響楽団のオーディション等を通過。サンタフェ、ノースカロライナ、プリンストン、セントラルシティ、キャラモア、サラソータ、ファイアー・アイランドなどのオペラハウスや、ミュンヘン交響楽団、ガルシア国立交響楽団、ザ・キャッスルトン・フェスティバル、チェルシー・オペラ、ロサンゼルスのSong Festなどに出演。ニューヨークのアモーレ・オペラでは、「ファウスト」ヴァランティン、「道化師」シルヴィオ、「ドン・パスクアーレ」マラテスタなど主要人物を演じる。インディアナ大学ジェイコブス・スクール・オブ・ミュージックでティモシー・ノーブル教授に師事する。



アンソニー・ウェッブ Anthony Webb(テノール)

アメリカ各地でオペラやコンサートに出演し、オペラニュース紙に「優れた喜劇の才能と鍛えられた声」と評される。近年の出演は、マイケル・クリスティ指揮「Merry Mount」ジャック・プレンス(カーネギーホール)、オペラ・コロラド「蝶々夫人」ゴロー、ユニオン・アベニュー・オペラ「欲望という名の列車」ミッチ、タコマ・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオなど。オペラ・シアター・オブ・セントルイスのジェラルディーン・ヤング・アーティストとして「スウィートニー・トッド」アドルフォ・ピレリを演じ、2012年にはウンスク・チンの話題作「不思議の国のアリス」のアメリカ初演にバンタム・コック役で出演。パシフィック・ルーセラン大学音楽教育で学士、インディアナ大学ジェイコブス音楽院で修士号を取得。10年メトロポリタン・オペラ・ナショナル・カウンシル・オーディションで地域優勝、14年アイリーン・ダリス・コンクール優勝。



ロッキー・セラーズ Rocky Sellers(バス)

ニューヨーク・オブザーバー紙から「生き生きとした響きの良いバス」と評される。2016-17シーズンはオペラ・オン・ザ・ジェームズにタイラー・ヤング・アーティスト・プログラムで参加、「ファルスタッフ」ピストーラと「バイ・バイ・ブリー」ビッグ・ブリーで出演。また、今後パシフィック・オペラ「愛の妙薬」ドゥルカマーラ博士、アッシュ・ローン・オペラ「リゴレット」モンテローネ伯爵、ユートピア・オペラ「エフゲニー・オネーギン」グレーミンで出演予定。その他ポートランド・オペラ、サンタフェ・オペラ、オペラ・サラトガ、デル・アルテ・オペラ・アンサンブル、デラウエア・バレエ・オペラ・カンパニー、オペラ・ネープルズ、オペラ・エボニー、ナチェズ・フェスティバル・オブ・ミュージック、ワーグナー・ソサエティー・オブ・シンシナティ、レジーナ・オペラ、ソウル・インターナショナル・オペラ・フェスティバルに出演。メトロポリタン・オペラ・ナショナル・カウンシル・オーディション、メンデルスゾーン・クラブ・オブ・アルバニー、ケネット・シンフォニー・ボイス・コンクール、デル・アルテ・オペラから各賞受賞。

坪井夏美 Natsumi Tsuboi(ヴァイオリン)

第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

1993年米国ニューヨーク州生まれ。現在東京藝術大学大学院音楽研究科2年在学中。 2015年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位、第81回日本音楽コンクール第3位 を受賞。これまでに読響、都響、新日本フィル、東京フィル、日本フィル、日本センチュ リー、ニューフィル千葉、芸大フィル等と共演。現在、漆原朝子、原田幸一郎の各氏に師 事。使用楽器は宗次コレクションにより貸与されたJ.Rocca1864。

吉江美桜 Mio Yoshie(ヴァイオリン)



第12回東京音楽コンクール弦楽部門第3位

🚄 4歳から石川杉子氏のもとでヴァイオリンをはじめる。第66回全日本学生音楽コンクール高 校の部東京大会第1位。第84回日本音楽コンクール第3位。これまでにソロを石川杉子、原 田幸一郎、清水涼子、漆原朝子、神谷美千子の各氏に、室内楽を原田幸一郎、毛利伯 郎、山崎伸子、徳永二男、三上桂子、練木繁夫、磯村和英の各氏に師事。現在桐朋学園 大学音楽部第3学年在学中。



鈴村大樹 Taiki Suzumura(ヴィオラ)

第9回東京音楽コンクール弦楽部門第3位

3歳よりヴァイオリンを始め、18歳でヴィオラに転向。ヴィオラを岡田伸夫氏に師事。プロジェ クトO第8章にカルミア弦楽四重奏団として参加。第3回横浜国際音楽コンクール弦楽器部 門第1位。山手の丘音楽コンクール第1位、横浜ライオンズクラブ賞、Fグループ賞を併せて 受賞。



©Kei Uesugi

笹沼 樹 Tatsuki Sasanuma (チェロ)

第12回東京音楽コンクール弦楽部門第2位

全日本学生音楽コンクールチェロ部門高校の部、ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コ ンクール、東京音楽コンクール、日本音楽コンクールなどで優勝、入賞。 Music Alp、北九 州国際音楽祭、十勝音楽祭、赤穂le pont音楽祭、Melbourne Cello Festival、Piatigolsky International Cello Festival等に参加。霧島国際音楽祭賞、堤剛音楽監督賞を受賞。これま でにヴェンゲーロフ、ギトリス、2cellos、篠崎史紀各氏、新日本フィルハーモニー交響楽団 等と共演。室内楽でも、松尾財団松尾音楽助成、横浜国際音楽コンクールグランプリ、ルー マニア国際音楽コンクール第1位、ミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門にて第3位、 特別賞など、受賞多数。桐朋学園大学ソリストディプロマコース、並びに学習院大学文学部 独文科卒業。現在桐朋学園大学大学院に在籍中。現在堤剛氏に師事。ヤマハ音楽奨学 生、ロームミュージックファンデーション奨学生。 CHANEL Pygmalion Daysアーティスト。



白井菜々子 Nanako Shirai(コントラバス)

第13回東京音楽コンクール弦楽器部門第3位

神奈川県横須賀市出身。15歳よりコントラバスを始め、高群誠一、星秀樹両氏に師事。 2008年桐朋学園大学音楽学部音楽学科に入学。10年よりウィーン国立音楽大学にてヨー ゼフ・ニーダーハマー氏の元で研鑽を積む。 現在東京音楽大学大学院修士課程にて星秀 樹氏に師事、特別特待奨学生として在籍中。第4回トレヴィーゾ市国際音楽コンクール弦楽 器部門第1位、第19回コンセール・マロニエ21第1位受賞。国内外のオーケストラと協演を重 ねている。



多久和怜子 Reiko Takuwa(フルート)

第11回東京音楽コンクール木管部門第2位

上野学園大学演奏家コース卒業。桐朋学園大学研究科修了。第81回読売新人演奏会、第38回フルートデビューリサイタルに出演、小澤征爾音楽塾、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「青少年のためのオペラ」、北九州国際音楽祭等に参加する。第29回日本管打楽器コンクール第3位、第82回日本音楽コンクール第2位など、数々のコンクールに入賞。これまでにフルートを野口龍、段田尚子、倉田優、寺本義明の各氏に師事。



篠原拓也 Takuya Shinohara(オーボエ)

第9回東京音楽コンクール木管部門第2位

東京音楽大学を首席で卒業。大学在学中特待奨学生に選ばれる。2016年、第22回沖縄シュガーホール新人演奏会オーディションにてグランプリを受賞。大学卒業時には卒業演奏会に出演。これまでにソリストとして日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団と共演。小澤征爾音楽塾オーケストラ・プロジェクト、オペラ・プロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「青少年のためのオペラ」等に参加。オーボエを姫野徹、荒絵理子、宮本文昭の各氏に師事。



コハーン・イシュトヴァーン István Kohán(クラリネット)

第11回東京音楽コンクール木管部門第1位及び聴衆賞

ハンガリー出身のクラリネット・ソリスト。音楽一家に生まれ、12歳でバルトーク音楽高等学校に入学後すぐに才能を開花し、多くの国際コンクールで優勝・入賞する。リスト音楽院卒業後の2013年に拠点を日本へ移した。第4回秋吉台音楽コンクール、第26回日本木管コンクール、第84回日本音楽コンクール全て第1位及び副賞多数受賞。第26回青山音楽賞受賞。ハンガリー芸術賞受賞。16年東京音楽大学大学院修了。日本・ハンガリーの主要オーケストラとコンチェルトを協演、またソロリサイタルや室内楽の活動を展開する。現在、東京音楽大学講師。



柿沼麻美 Asami Kakinuma(ファゴット)

第13回東京音楽コンクール木管部門第3位

東京藝術大学を経て同大学大学院修士課程を修了。第26回宝塚ベガ音楽コンクール木管部門第1位及び兵庫県知事賞受賞。第33回日本管打楽器コンクールファゴット部門第1位及び文部科学大臣賞、東京都知事賞を受賞。これまでにファゴットを吉澤真一、坂田在世、水谷上総、岡崎耕治、岡本正之、吉田將、ピエール・マーテンスの各氏に師事。現在、千葉交響楽団ファゴット奏者。



深江和音 Kazune Fukae(ホルン)

2017年、東京音楽大学を卒業。ホルンを村上哲、水野信行の各氏に師事。16年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXIV「こうもり」に参加。15、16年度、東京音楽大学給費奨学金奨学生。16年7月、学内オーディション合格者による東京音楽大学ソロ・室内楽定期演奏会にて、ソロ、室内楽の両部門で出演。



高瀬真吾 Shingo Takase(パーカッション)

東京音楽大学を特別特待奨学生として、開学以来初の3年早期卒業にて修了し、卒業演奏会に出演。2011年第28回日本管打楽器コンクールにおいて打楽器部門で史上最年少ファイナリスト及び第3位入賞。13年サイトウ・キネン・フェスティバル「子どものための音楽会」、「青少年のためのオペラ」に出演。14年第63回ミュンヘン国際音楽コンクールに参加。16年TROMP国際打楽器コンクール(オランダ)にてWinner of AMWに選出され、18年のアムステルダム・マリンバフェスティバルへの招待演奏が決まっている。

小林海都 Kaito Kobayashi(ピアノ)



第11回東京音楽コンクールピアノ部門第2位

現在師事するマリア・ジョアン・ピリス氏のもとで研鑽を積みつつ、同氏が力を注いでいる若手音楽家育成プロジェクト「パルティトゥーラ」の一員として活動を展開している。これまでに日本、イタリア、モロッコの各地でピアノデュオコンサート等を行った。これまでに、ピアノを湯口美和、故ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、横山幸雄、田部京子の各氏に師事。エリザベート王妃音楽院での2年間の在籍を経て、2016年9月よりバーゼル音楽院にて、クラウディオ・マルティネス・メーナー氏に師事。

ミミ・リエン Mimi Lien(美術)



演劇、ダンス、オペラ等複合舞台のセット/環境デザイナー。建築分野の出身で、2015年にはマッカーサー・フェロー(天才助成金)をセットデザイナーとして初めて受賞した。ピッグ・アイロン・シアター・カンパニー、Civilians芸術員、BalletTechレジデント・デザイナー、ブルックリンのパフォーマンス/アート・スペース「JACK」共同設立者。過去の作品は、13年ローテル賞受賞のブロードウェイ作品「Natasha, Pierre & The Great Comet of 1812」、15年ヒューズ・デザイン賞受賞の「John」、LAドラマ・クリティックス・サークル賞受賞の「Appropriate」、リンカーン・センター公演の「Preludes」「The Oldest Boy」、ドラマデスク賞、ローテル賞にノミネートされた「An Octoroon」など。リンカーン・センターからジョセフ・クルマン賞を受賞したほか、ルシル・ローテル賞、アメリカン・シアター・ウィング・ヒュース・デザイン賞、LAドラマ・クリティクス・サークル賞、バリモア賞、オビー賞も受賞。17年トニー賞ミュージカル装置デザイン賞にノミネートされる(「Natasha, Pierre & The Great Comet of 1812」)。

トゥーチェ・ヤサック Tuce Yasak(照明)

トルコのミドル・イースト・テクニカル・ユニバーシティ・イン・ターキーの工業意匠部を2004年に卒業する。11年からルメンセンティエント・プロジェクションに参加し、13年にニュー・ヘーブンのアーバン・ライト・フェスティバル「ランプ」、15年にマス・ブリス・フェスティバルでもパフォーマンスを行う。デザインは多数のプロダクションや展示、雑誌にも発表され、グッゲンハイム美術館で13年に行われた「具体:素晴らしい遊び場所」で展示されたほか、マナ・コンテンポラリー・アート・センター(ニュージャージー州)、メキシコ・シティ、ベーテス・ダンス・フェスティバル、ブルックリン・アカデミー・オブ・ミュージックなど多数のプロジェクトで活躍している。

ウァナ・ボデズ Oana Botez(衣裳)



プリンセスグレース財団賞、NEA/TCGキャリア・デベロップメント・プログラム、バリモア賞、ドラミー賞を受賞。ヘンリー・ヒューズデザイン賞にもノミネートされる。ニューヨークをはじめ全米各地で活躍する他、ルーマニア、フランス、ハンガリー、トルコ、ドイツ、ペルー、イタリア、イギリス、シンガポールでダンス、演劇、オペラ、映画などの様々なプロジェクトに参画する。ブカレスト芸術大学(ルーマニア)卒業、ニューヨーク大学、ティッシュ・スクール・オブ・アーツ修士号取得。現在コルゲート大学とブルックリン大学で衣裳デザインを教えている。

レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽」 プロフィール



小川響子 Kyoko Ogawa(ヴァイオリン)

第10回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

東京藝術大学卒業。東響、新日本フィル、東京フィル、日本フィル、都響をはじめ、オーケストラと多数共演。また、ソリストとしてアンネ・ゾフィ・ムター、小澤征爾と共演。ソロ、室内楽、オーケストラをはじめとする様々な分野で積極的に活動している。現在、東京藝術大学大学院修士課程在学中。



戸原 直 Nao Tohara(ヴィオリン)

東京藝術大学音楽学部を卒業、同大学大学院を修了。学部在学中に安宅賞、卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。大学院修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。 2012年第17回コンセール・マロニエ21弦楽器部門第1位。現在、藝大フィルハーモニア管弦楽団コンサートマスター。



田原綾子 Ayako Tahara(ヴィオラ)

第11回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞

ルーマニア国際音楽コンクール全部門グランプリ。読売日響、東響、東京フィルと共演。宮崎国際音楽祭、武生国際音楽祭、題名のない音楽会、CHANEL Pygmalion Days室内楽シリーズ出演の他、著名なアーティストと多数共演。現在パリ・エコールノルマル音楽院在学中。ブルーノ・パスキエ、岡田伸夫の各氏に師事。



森田啓佑 Keisuke Morita (チェロ)

高校在学中に全日本学生音楽コンクールと日本音楽コンクールの同時2冠を達成、徳永賞、黒柳賞、岩谷賞も受賞。ららら♪クラシック、リサイタル・ノヴァ、東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭等へ出演し、ミッシャ・マイスキー、原田禎夫、ピンカス・ズッカーマンの各氏と共演。桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマ・コース2年に特待生として在籍。倉田澄子氏、宮田大氏に師事。NPO法人イエローエンジェル奨学生。



冨永愛子 Aiko Tominaga (ピアノ)

第6回東京音楽コンクールピアノ部門第1位

東京音楽大学(特待奨学生)卒業後、ドイツ国立エッセン芸術大学を首席で修了。「紀尾井ニュー・アーティスト・シリーズ」に出演(2010年)、東京文化会館小ホールでソロリサイタルを開催(14年)。ソリストとして日フィル、都響、東響、東京シティフィル等と共演。17年11月ソロ・デビューアルバムをリリース予定。



宮里直樹 Naoki Miyasato(テノール)

第10回東京音楽コンクール声楽部門第2位〈最高位〉及び聴衆賞

東京藝術大学首席卒業。同大学院オペラ科修了。ウィーン国立音大オペラ科で2年間学ぶ。藤原歌劇団公演「愛の妙薬」ネモリーノ役に抜擢。17年10月に二期会公演「蝶々夫人」ピンカートン役で出演予定。第23回リッカルド・ザンドナーイコンコルソ第2位他受賞歴多数。声楽を市村香枝、藤澤佑一、多田羅迪夫、ラルフ・デーリングの各氏に師事。二期会会員

レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽」 プロフィール



清水理恵 Rie Shimizu(ソプラノ)

第7回東京音楽コンクール声楽部門第1位及び聴衆賞

東京音楽大学オペラコース卒業。同大学同コース研究生修了。2003年、11年イタリア・ボローニャに短期留学。第41回日伊声楽コンコルソ第2位。「リゴレット」ジルダ、「椿姫」ヴィオレッタ、「ファルスタッフ」ナンネッタ、「愛の妙薬」アディーナ、「魔笛」パミーナ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル等のオペラに出演。また、第九、フォーレ「レクイエム」等のソプラノソロを務める。藤原歌劇団団員。



駒井ゆり子 Yuriko Komai(ソプラノ)

第1回東京音楽コンクール声楽部門第2位

東京音楽大学大学院修了。二期会オペラ研修所を優秀賞、奨励賞を得て修了。パリ・エコールノルマル音楽院コンサーティスト資格を審査員満場一致及び称賛付きを得て首席修了。国内外の数々のコンクールで上位入賞し、トゥールーズ国際フランス歌曲コンクールでは最優秀ピアノ声楽デュオ賞。文化庁海外派遣研修員。桐朋学園大学講師。二期会会員。日本フォーレ協会会員。



末吉朋子 Tomoko Sueyoshi(ソプラノ)

国立音楽大学卒業。イタリア・ヴェローナにて研鑽を積む。文化庁公演「魔笛」夜の女王、東京室内歌劇場公演「秘密の結婚」エリゼッタ、「ラ・カリスト」カリスト等数多くのオペラ作品に出演。近年では古楽グループ・アントネッロとの共演も多く、イタリア初期バロックオペラの演奏でも定評がある。東京室内歌劇場会員、藤原歌劇団団員。



高橋華子 Hanako Takahashi(メゾソプラノ)

第8回東京音楽コンクール声楽部門第2位及び聴衆賞

お茶の水女子大学卒業。ワーグナー財団、野村文化財団奨学生として、ミュンヘン音楽・ 演劇大学、同大学院声楽科及び歌曲科を修了。第8回東京音楽コンクール声楽部門第2位 及び聴衆賞をはじめ、受賞歴多数。国内外で数々の音楽祭に出演、オーケストラと共演し いずれも高い評価を得ている。藤原歌劇団団員。



鏡 貴之 Takayuki Kagami (テノール)

岩手大学教育学部卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程独唱専攻修了。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、多田羅迪夫の各氏に師事。主にオラトリオ、宗教曲のソリストとして活動中。第4回東京国際声楽コンクール第1位、並びに審査員特別賞、東京新聞賞受賞。バッハ・コレギウム・ジャパンメンバー。



原田 圭 Kei Harada(パリトン)

東京藝術大学卒業。同大学院修了。博士号(音楽)取得。安宅賞受賞。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位、中田喜直賞受賞。新国立劇場「黒船」、二期会「魔笛」、日生劇場「夕鶴」等のオペラ、宗教曲のソリストとして多数出演。現在、千葉大学教育学部音楽科、上野学園大学、日本大学芸術学部非常勤講師。二期会会員。

レクチャーコンサート「漱石の体験した洋楽」 プロフィール



星田裕治 Yuji Hoshida(バリトン)

大阪府出身、東京藝術大学声楽科卒業。ドイツ歌曲とシベリウス、ガンバ大阪を愛する。「ドン・ジョヴァンニ」「椿姫」「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「ジャンニ・スキッキ」「こうもり」「河童譚」「第九」「ドイツ・レクイエム」等オペラ、コンサートに多数出演、誠実な歌唱と演技に定評がある。さいたまシティオペラ演奏会員、日本シベリウス協会会員。



坂下忠弘 Tadahiro Sakashita(バリトン)

桐朋学園大学研究科修了。巨匠ピアニスト、ダルトン・ボールドウィン氏に称賛を受け、パリ、ニースで研鑚を積む。宗教曲、オペラ、クロスオーバーまで、クラシックだけにとらわれず幅広いレパートリーを得意とし、各メディアでも活躍中。北海道旭川市観光大使。二期会会員。



大久保光哉 Mitsuya Okubo(語り手・バリトン)



慶應義塾大学法学部卒業。東京藝術大学大学院博士課程および文化庁オペラ研修所第10期修了。文化庁在外派遣研修員としてスウェーデンに留学。音楽博士。二期会会員。新国立劇場「アンドレア・シェニエ」、二期会「リア」、沼尻竜典作曲「竹取物語」、東京フィルハーモニー管弦楽団「ペール・ギュント」、NHKクラシック倶楽部、NHK-FM名曲リサイタルなどに出演。



堀内由起子 Yukiko Horiuchi(ピアノ)

国立音楽大学音楽教育学科卒業。2001年渡独、ワイマールのフランツ・リスト音楽大学指揮学科オペラ・コレペティツィオン専攻・ディプロマ取得、上級研究科修了。ワイマール・ドイツ国民劇場、アルテンブルク・ゲラ劇場など十余の劇場コレペティトゥアのほかワイマール・フランツ・リスト音楽大学の教員を務める。2016年8月帰国。17年3月公演のFUKUSHIMA白河版「魔笛」に参画。



瀧井敬子 Keiko Takii(音楽学・音楽プロデューサー)

著書は『漱石が聴いたベートーヴェン』(中公新書)、『幸田延の滞欧日記』(東京藝大出版会)、編著書『森鷗外訳「オルフエウス」』『ゼッキンゲンのトランペット吹き』(紀伊國屋書店)など。自らの音楽学研究の成果を各種コンサートやオペラ公演の形でも発表。元東京藝術大学特任教授。